

顔の見える木材供給体制構築事業

事業実施主体

社会福祉法人幸仁会・NPO法人木育・木づかいネット

【テーマ】林福連携による地域材製品のデザインと福祉事業者間共有に向けた取り組み

背景と目的

【背景】

- ・福祉作業所において生産される木製品の高付加価値化が大きな課題
- ・働く障害者の労働環境向上には地域材製品のデザイン開発が急務

【目的】

- ・林福が連携し、新たな製品開発と福祉作業所間での知見共有を図る

対象とする木材・製品、川上から川下までの流通の考え方など

○実施主体である幸仁会では、地域の森林組合との連携のもと、認証木材を含む、県産材(主としてヒノキ)を積極的に活用し、製品づくりを進めてきた。今回の取り組みにおいても、安定的な供給体制を確認し、その良さを活かした製品作りを進めていきたい。また、主体性を持った製品作りと販売戦略を策定しながら、消費者のニーズに沿った生産体制へと改革を図る。さらに、この取り組みをモデル化し、全国の福祉作業所にその知見を共有し、合法木材の利用推進につなげたい。

写真・図等

地域の合法木材を、福祉作業所における「仕事」としてデザイン・製品開発をすすめ、その付加価値向上に取り組む。



実施体制・参加団体等

共同事務局および事業検討委員会の設置

- 埼玉県中央部森林組合 : 地域材の供給体制に対する助言
- 寄居町社会福祉協議会 : 障害者の労働環境に対する助言
- パワープレイス株式会社 : デザインの監修
- グラム・デザイン : 広報活動の支援
- 特定非営利活動法人日本セルフセンター(木工部会) : 研修会開催への助言、協力

事業内容(本事業における具体的な実施項目)

本事業では、次に示す取り組みを進め、魅力ある地域材製品の開発とその普及、そして他の社会福祉法人と連携した障害者の働く場の形成に努める。

①デザインコンセプトの立案と生産工程の検討

現在幸仁会が進める木材製品の生産、森林組合等からの素材供給体制について見直すとともに、その強みを生かした製品のデザインのブラッシュアップを進める。

②地域材を活用した製品ラインナップの整備と他の施設への技術移転
デザインした製品の流通、販売に向けて、製品のブランディングを進めると同時に、コスト管理のための生産体制、材料供給体制の合理化、そして障害者が力強く働ける職場づくりに向けた検討を進めるとともに、他の施設との知見共有のための研修会を開催する。

③製品のブランディングに向けた普及・広報活動の実施

製品、ブランドの充実に向けた取り組みを進める一方で、これまでとは異なる新たなマーケット(ターゲット)に向けた製品の普及、広報活動を進める。試作した製品については、その製作過程を含め、ストーリー性のあるWEBカタログとしてまとめるほか、埼玉県農林公園のイベント等を利用して展示会を開催し、地域材製品の普及広報を進める。

スケジュール

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

予備調査

検討委員会

デザイン検討

試作・工程の検討

研修会開催・広報

報告書作成